

I 大阪信愛学院大学について

1. 大阪信愛女学院の沿革

家政科開設

1) 沿革

1877(明治 10)年	大阪信愛女学校教育事業創設者 シスター・マリー・ジュスティヌ、 大阪信愛高等女学校創立者 シスター・マリー・ベルナルディヌ、 フランスより来日	1967(昭和 42)年	全国信愛姉妹校教育方針統一
1879(明治 12)年	孤児養育事業創設於 大阪西区本田 3 番地	1968(昭和 43)年	短期大学開学 10 周年
1884(明治 17)年	教育事業創設、信愛女学校於 現西区川口町	1970(昭和 45)年	短期大学保育科を初等教育学科に改組、 家政科を家政学科と改称
1888(明治 21)年	信愛幼稚園開設	1974(昭和 49)年	教育事業創設 90 周年
1890(明治 23)年	信愛小学校創立	1982(昭和 57)年	大阪信愛女学院短期大学図書館落成
1908(明治 41)年	大阪信愛高等女学校創立本科・ 技芸専修科設置	1984(昭和 59)年	教育事業創設 100 周年
1909(明治 42)年	大阪信愛小学校廃止 幼稚園廃止	1988(昭和 63)年	短期大学家政学科を生活文化学科に改称
1919(大正 8)年	校旗(現学院旗)	2001(平成 13)年	短期大学生生活文化学科を人間環境学科に改称 短期大学鶴見学舎落成
1932(昭和 7)年	川口町より現在地に校舎移転		城東学舎に児童教育研究所開設 鶴見学舎に環境総合研究所開設
1941(昭和 16)年	大阪信愛高等女学校、財団法人組織となる	2003(平成 15)年	短期大学城東学舎改築
1944(昭和 19)年	大阪信愛高等女学校附属幼稚園開園	2004(平成 16)年	聖堂落成
1947(昭和 22)年	学制改革により財団法人 大阪信愛学園中学校開校	2009(平成 21)年	短期大学看護学科開設 教育事業創設 125 周年 短期大学開学 50 周年
1948(昭和 23)年	学制改革により財団法人 大阪信愛学園高等学校開校	2012(平成 24)年	初等教育学科を子ども教育学科に改称 信愛フェスティバル 128〜手をつないで地域 とともに〜(城東区に転入 80 周年)
1951(昭和 26)年	学校法人大阪信愛女学院と 組織変更	2014(平成 26)年	教育事業創設 130 周年
1952(昭和 27)年	大阪信愛女学院小学校開校	2018(平成 30)年	大阪信愛女学院短期大学を 大阪信愛学院短期大学に改称
1956(昭和 31)年	大阪信愛女学院幼稚園 教員養成所開所	2019(平成 31)年	大阪信愛学院短期大学 60 周年
1959(昭和 34)年	大阪信愛女子短期大学開学、 保育科設置	2022(令和 4)年	大阪信愛学院大学開学
1961(昭和 36)年	大阪信愛女子短期大学を 大阪信愛女学院短期大学と改称		

I 大阪信愛学院大学について

2) 学院歌

作詞：小林 恒市 改定：角田 チエ子 作曲：市川 都志春

1. かぐわしき 神のみ恵み いや深く

生駒高嶺を 目も遥に

栄ゆる信愛 歴史は常世

2. 果てしなく 広がる未来へ 朝夕な

思いたけびて 学徳を

ともに顕し 献げまつらん

I 大阪信愛学院大学について

2. 建学の精神、学院標語、学院章・大学章、信愛教育の5つの柱

1) 建学の精神

カトリック精神に基づき、キリストに信頼し、愛の実践を生きることを建学の精神とする。

2) 学院標語

“Cor Unum et anima una “

「一つの心、一つの魂」

—使徒行録 4:32—

3) 学院章・大学章



学 院 章



大 学 章

学院章はギリシャ十字架形を基にしたもので、この外形の十字架は信仰を、中央の十字架のついたハートはキリストの愛を表しています。

この信と愛とは学院名を表すと共に、神と人に対する本学の建学の精神の象徴です。

4) 信愛教育5つの柱

- (1) キリストの教えに根ざした教育
- (2) 一人ひとりを大切にする教育
- (3) 能力の開発を目指す教育
- (4) 自己形成を促す教育
- (5) 社会貢献への態度を形成する教育

3. 大学の教育目的、3つのポリシー、アセスメント・ポリシー

1) 教育目的

本学の教育目的は、「建学の精神であるキリスト教的人間観に基づき倫理観を大切に、幅広い教養と豊かな人間性を備え、他者との良好な人間関係を築き、科学的根拠に基づいて論理的に考え、社会貢献へ向けて創造的に行動し、教育や保育、看護における質の高いヒューマンケアを実践でき、専門職としての資質の向上に努力する人材を養成する」ことです。

2) 3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本学の教育目的に従い、人間力と実践力を養い、以下に示す卒業時に期待される能力を身につけ、各学部における所定の単位を取得するとともに必要な要件を満たした学生に学士の学位を授与します。

- ①キリスト教の人間観と倫理観を基に、他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力、創造力をもとに、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる。
- ②基礎的及び専門的知識・技能を用い、適切なヒューマンケアの実践へ向けて、対象者を多角的に理解できる。
- ③科学的根拠に基づき、対象者の特性や実態に合わせた教育・保育、看護を計画的、継続的に実践できる。
- ④円滑なコミュニケーションの中で、自らの専門性を発揮し、他者と協働しながら良好なチームワークを形成し、課題解決できる。
- ⑤国際的視野を持ち、高度情報化に対応しながら、生涯にわたり継続的に学び、専門職者として創造的に活動し、社会に貢献できる。
- ⑥現代の諸問題に対して科学的、論理的に思考し、専門職者として主体的に教育・保育、看護を実践できる。

I 大阪信愛学院大学について

(2) カリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)

ディプロマ・ポリシーを達成できるように両学部共通で学ぶ共通教育科目、各学部の学問体系で構成される専門教育科目、その他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせています。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の分類を表現するナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示しています。教育内容、教育方法、評価について以下のように定めています。

①教育内容

4年間を通した大学の学修の基礎となる共通教育科目においては、i 宗教と人間に関する科目、ii 社会と人間に関する科目、iii 表現・行動と人間に関する科目、iv 情報と人間に関する科目、v 言語・文化と人間に関する科目を配置し、「人間の尊厳」や良好な人間関係を形成するための知識とスキルや、大学での学び方、学習スキルなど、将来に向けての学びの基礎となる教育を行います

専門教育科目においては、専門分野の体系に基づき、必修科目と専攻に基づく科目配置を行い、大学での学びの総合化として卒業研究に係る科目は必修とします。

②教育方法

アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施し、事前・事後課題や授業方法の工夫をシラバスに明記して実施します。また、体験重視の学修方法を積極的に取り入れ、サービスマーケティング、インターンシップ、異文化交流等、社会との接点における課題解決学修に積極的に取り組みます。専門教育科目においては、形成的評価を通じてリフレクションを行いながら確実な知識と実践の統合と定着を目指します。

③評価

各授業科目は到達目標に応じた評価方法(テスト、レポート、プレゼンテーション等)を用いて評価を行います。学期毎にGPAで評価を行いつつ、累積GPAで評価します。卒業認定においては、ディプロマ・ポリシーの達成状況の評価し、学びの質保証を行います。

(3) アドミッション・ポリシー(学生の受け入れ方針)

本学では、先に記した教育目的に照らし、次のような学生を求めています。

- ①各学部における教育内容に興味関心があり、将来専門職として社会に貢献する意欲がある。
- ②大学で学ぶための基礎的な学力を備えている。
- ③人間の尊厳を大切にし、人とよりよい関わりができる。
- ④常に努力を惜しまず、積極的に行動できる。

I 大阪信愛学院大学について

3) アセスメント・ポリシー(学修成果の評価方針)

本学は、「建学の精神」、「教育の目的」を実現するために、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとしてその方針を定め、教育活動を進めるとともに、恒常的な教育の質保証と改善に努めます。これらの方針の達成状況、教育効果並びに学生の学修成果に対する測定・評価指標は、機関(大学)、教育課程(学部・学科)、科目の3つのレベルに対して、全学として以下のように定めます。

(1)機関レベル

学生の就職進路の状況(就職率・進学率・資格取得状況等)や、各種アンケート状況から、学修成果の達成状況进行评估します。

(2)教育課程レベル

学部の教育課程における卒業要件達成状況(単位修得状況・GPA)、資格・免許取得状況、各種学生アンケートの状況、アセスメントテスト等から、教育課程全体を通した学修成果の達成状況进行评估します。

(3)科目レベル

シラバスで示された授業の到達目標に対する評価、および授業評価アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況进行评估します。

4. 学部の教育目的と3ポリシー

1) 教育学部の教育目的と3ポリシー

(1) 教育学部の教育目的

キリスト教の人間愛、倫理観を基に、人権を尊重し、人間相互の信頼を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて児童の教育、乳幼児の保育を主体的に実践できる心豊かな教育者、保育者を養成します。国際化、情報の高度化、人口構造の急激な変化などによってもたらされる現代社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会の要請に応えることができ、生涯学び続ける人材を養成します。

(2) 教育学部の3ポリシー

①教育学部のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

以下の能力を身につけ、かつ学則で定める所定の単位（124 単位）を修めた者に対し学位「学士（教育学）」を授与します。

- DP 1 キリスト教精神に基づいて他者及び異文化を尊重し、豊かな教養や共感力・想像力を基に、国際的な視野を持ち、多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成できる。
- DP 2 教育・保育に関わる使命感と責任感を持ち、教育・保育を実践するために必要な基礎的及び専門的な知識・技能を身につけ、適切な教育・保育を実践できる。
- DP 3 教育の対象者の発達年齢、健康状況、心身両面における特性を包括的に理解し、一人ひとりの子どもの実態や状況に応じた教育を構想し、計画的・継続的に教育・保育を実践できる。
- DP 4 教育・保育の質向上を目標に、他者と円滑なコミュニケーションを取り、協働して課題解決できる。
- DP 5 科学的な根拠に基づいて論理的に考える姿勢を身につけ、生涯にわたり持続的に学び、社会に貢献できる。
- DP 6 専門職者として、現代の教育課題に対して確かな認識を持ち、必要とされる教育・保育を主体的に思考して実践できる。

I 大阪信愛学院大学について

②教育学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を達成するために、カリキュラムポリシーを定めています。

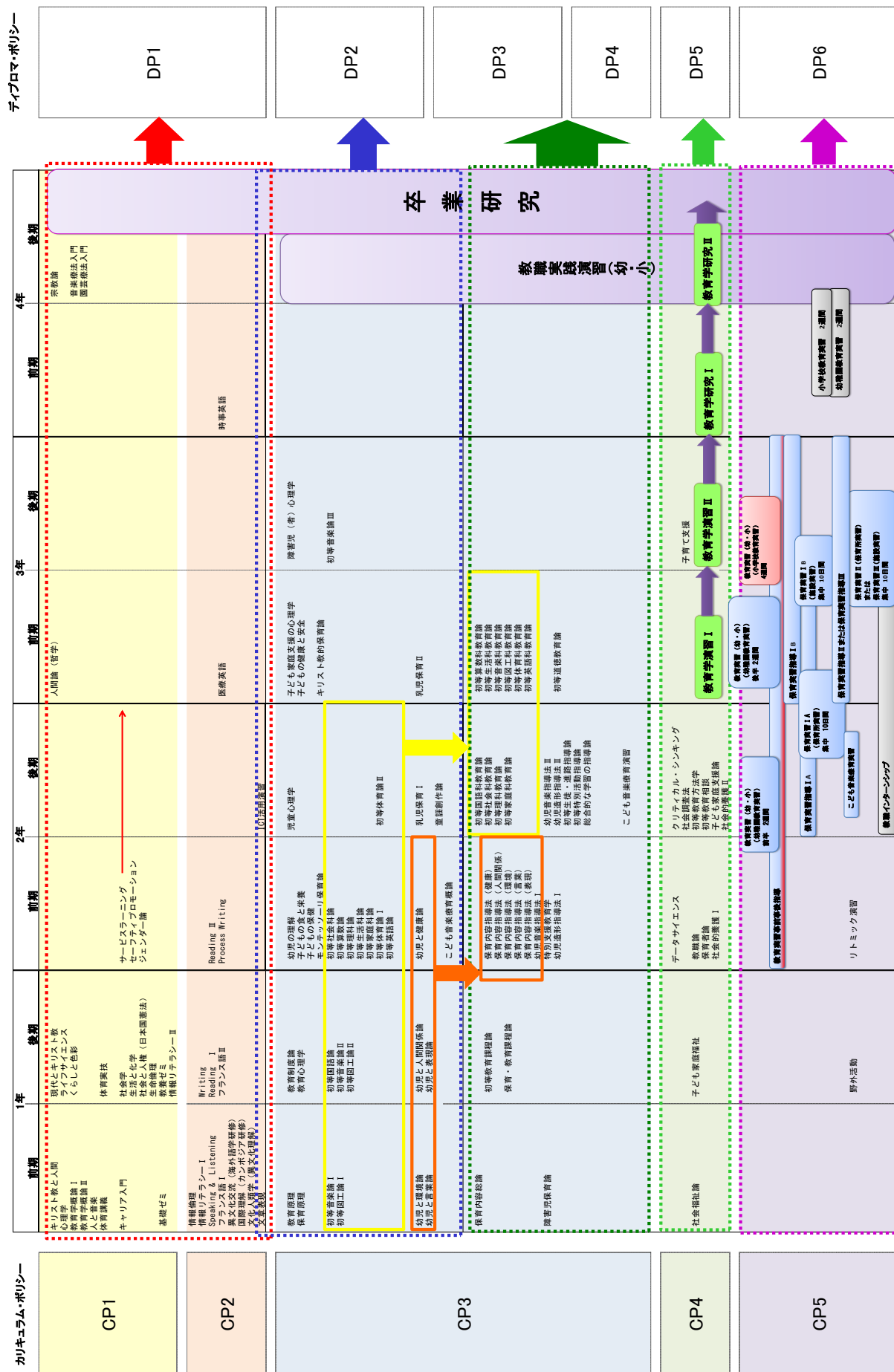
- CP 1 キリストの精神である人間への深い愛に基づいて、人間への理解を深め尊厳を持って教育・保育を行う人材を養成するために共通教育科目及び専門教育科目の科目群で編成し、それぞれの科目群で人間について学ぶ科目を設定する。
- CP 2 学修する上で必須能力であるコミュニケーションスキルや情報リテラシーの養成に関する科目を配置するとともに、豊かな教養ならびに国際性を育む科目を設定する。
- CP 3 教育・保育についての理念・理論について学び、心理的側面からも子どもの理解を深め、障害児を含む特別な支援を必要とする子どもについても理解し、教育・保育を探究する科目を設定する。
- CP 4 科学的な根拠に基づいて教育・保育を展開でき、論理的に物事を考え、生涯にわたり探究する姿勢の育成に関わる科目を配置する。
- CP 5 教育・保育の実践能力と主体的な学習態度を育成するために講義、演習、実習等の多様な学習形態を系統的に配置する。

③教育学部のアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）

- AP 1 乳幼児の保育、児童の教育に興味関心があり、将来教職、保育職として社会に貢献する意欲がある。
- AP 2 高校での教育課程を幅広く学び、保育者・教育者になるために必要となる基礎的な学力を備えている。
- AP 3 保育者や教育者をめざし、明朗で快活に仲間と協働ができるコミュニケーション能力を備えている。
- AP 4 幅広い関心から、主体的に課題発見に努め、その課題解決に実践的に取り組もうとする学習意欲をもっている。

I 大阪信愛学院大学について

教育学部カリキュラムマップ



I 大阪信愛学院大学について

2) 看護学部 of 教育目的と 3 ポリシー

(1) 看護学部 of 教育目的

キリスト教の人間愛、倫理観を基に人間の尊厳を守り、幅広い教養と豊かな人間性を備え、人間相互の信頼関係を形成し、自他共に成長できることを目標に科学的根拠に基づいて、主体的にヒューマンケアを実践できる看護師を養成します。人口の少子高齢化、医学医療、看護学の進歩発展、国際化によってもたらされる社会の変革や多様性に対応できる柔軟性、創造性を有し、社会的責務を果たし、生涯学び続ける看護師を養成します。

(2) 看護学部 of 3 ポリシー

①看護学部 of ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)

以下の能力を身につけ、かつ学則で定める所定の単位 (132 単位) を修めた者に対し学位「学士 (看護学)」を授与します。

- DP 1 人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くための幅広い教養と知識を身につけている。
- DP 2 看護実践に必要な人間の健康と疾病についての基礎的知識を身につけている。
- DP 3 あらゆる人々と援助的人間関係を形成し、健康課題に対して科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を有する。
- DP 4 多職種と連携・協働し、地域の人々の健康課題を解決する能力を有する。
- DP 5 多様化する社会に対応し、継続的に看護を探究しようとする態度を身につけている。

②看護学部 of カリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針)

先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた到達目標を達成するために、カリキュラムポリシーを定めています。

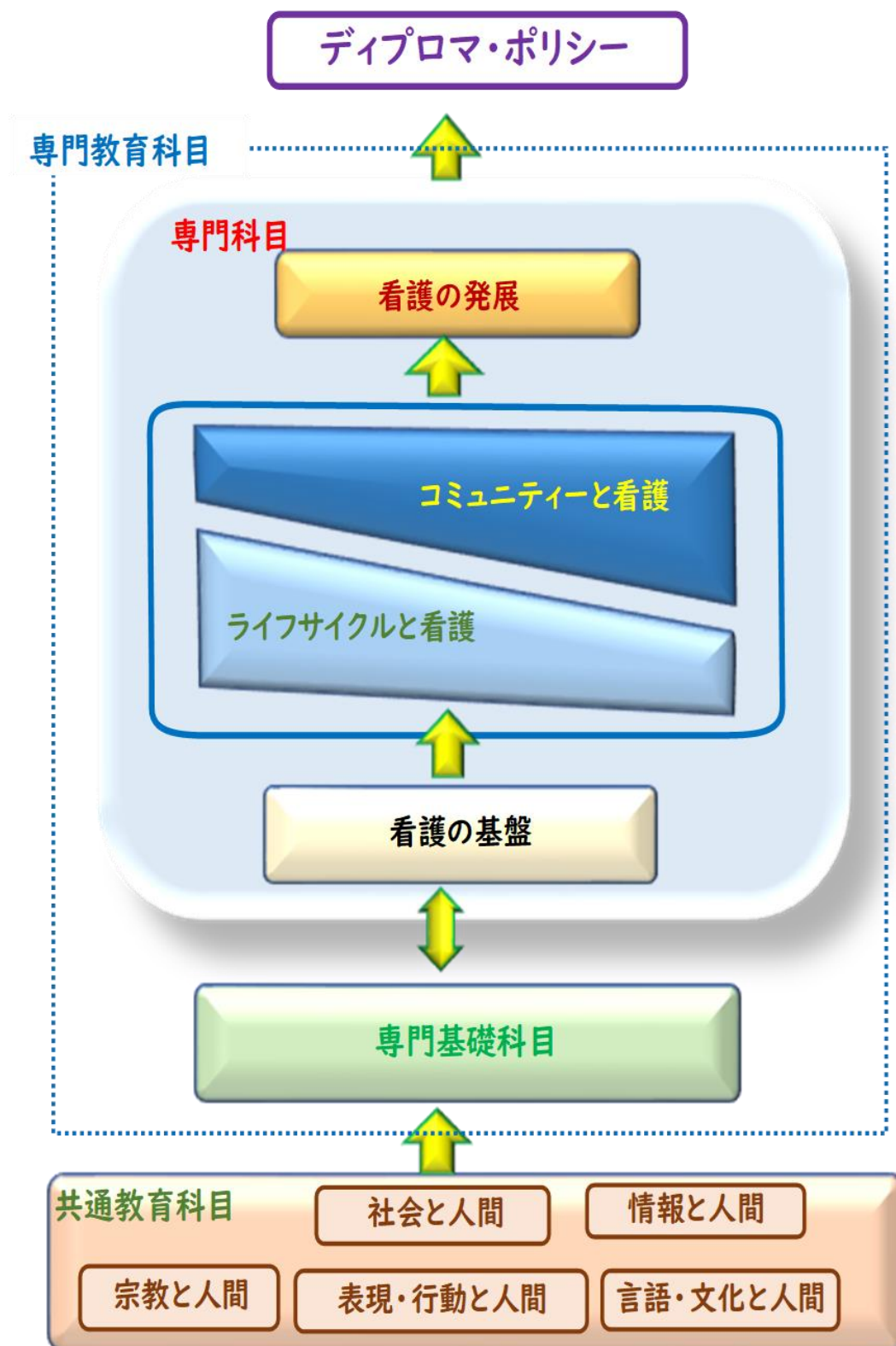
- CP 1 人間の尊厳を大切にし、良好な人間関係を築くことができる能力を養うために、人間や社会についての幅広い教養、他者への共感や論理的な考え方を学び視野を広げる基礎的科目を【共通教育科目】に配置する。
- CP 2 人間の心や身体の仕組みを理解し、あらゆる人々の健康生活の保持増進や健康障害の予防、健康の回復に関わる治療や関係制度に関する知識を学び、看護を行うときの根拠や必要性を考えることができるために【専門教育科目】として『専門基礎科目』を配置する。
- CP 3 科学的根拠に基づいた看護の知識・技術を修得するために基礎的な理論や技術、看護の展開方法を学ぶ科目を【専門教育科目】として『専門科目』『看護の基盤』に配置する。
- CP 4 多様な場において、看護の対象となる人々のライフサイクルやあらゆる健康レベルに対応する看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』『ライフサイクルと看護』に配置する。

I 大阪信愛学院大学について

- CP 5 地域で生活する人々の健康課題を解決するために、継続的に、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働して行う看護を理解する科目を【専門教育科目】として『専門科目』『コミュニティと看護』に配置する。
- CP 6 多様化する社会に対応する看護専門職の役割を理解し、看護学の発展を探究する姿勢を養うための科目を【専門教育科目】として『専門科目』『看護の発展』に配置する。

③看護学部のアドミッション・ポリシー(学生の受け入れ方針)

- AP 1 看護に興味関心があり、将来看護職として社会で活動する意欲がある。
- AP 2 看護学部での学びに必要な基礎的学力を備えている。
- AP 3 他者の意見が尊重できるコミュニケーション能力を備えている。
- AP 4 努力を惜しまず、主体的に行動できる。



I 大阪信愛学院大学について

看護学部 カリキュラム・ツリー

		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
DP 1	CP1	キリスト教と人間	現代とキリスト教			人間論（哲学）			宗教論	
		人と音楽	ライフサイエンス						音楽療法入門	
		体育講義	くらしと色彩						園芸療法入門	
		スポーツと健康	社会と人権（日本国憲法）							
		心理学	社会学	ジェンダー論						
		教育学概論Ⅰ	生活と化学	セーフティプロモーション						
		文化人類学（異文化理解）	教養ゼミ							
		文章表現								
		情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	データサイエンス	クリティカル・シンキング					
		情報倫理			社会調査法					
		基礎ゼミ								
		Speaking & Listening	Writing	Process Writing						
		フランス語Ⅰ	ReadingⅠ	ReadingⅡ		医療英語		時事英語		
異文化交流（海外語学研修）	フランス語Ⅱ									
国際理解（カンボジア研修）										
キャリア入門	生命倫理	サービスラーニング								
DP 2	CP2	人体の構造と機能（解剖学）	人体の構造と機能Ⅱ							
		人体の構造と機能Ⅰ	人体の構造と機能Ⅲ	医療倫理						
		社会心理学	生化学	環境と健康						
			微生物学・免疫学	社会健康学						
			生命科学	発達心理学						
			家族社会学	生活機能論						
		心のしくみと働き	疾病治療論Ⅰ	疾病治療論Ⅱ	疾病治療論Ⅲ					
				健康教育論	疾病治療論Ⅳ					
				病理学	臨床薬理学					
				栄養学						
				公衆衛生学（疫学）						
				保健統計学						
		社会福祉論								
DP 3	CP3		キャリアデザインⅠ			看護教育学Ⅰ				
			看護倫理							
			看護理論							
		看護概論		フィジカルアセスメントⅠ	フィジカルアセスメントⅡ					
		基礎技術Ⅰ	基礎技術Ⅱ	臨床判断論	家族看護論					
					ヒューマンケア実習Ⅱ					
		ヒューマンケア実習Ⅰ								
	CP4		生活発達看護論Ⅰ（男性）	生活機能支援論Ⅰ－①（男性）	生活機能支援論実習Ⅰ（男性）					
					生活機能支援論Ⅰ－②（男性）					
		生活発達看護論Ⅱ（小児）	生活機能支援論Ⅱ－①（小児）	生活機能支援論実習Ⅱ（小児）						
				生活機能支援論Ⅱ－②（小児）						
		生活発達看護論Ⅲ（成人）	生活機能支援論Ⅲ－①（急性）	生活機能支援論実習Ⅲ－①（急性）						
				生活機能支援論Ⅲ－②（慢性）	エンドオブライフケア論					
			生活機能支援論Ⅲ－④（急性）							
		生活機能支援論Ⅲ－⑤（慢性）								
			生活機能支援論Ⅳ－②（老年）							
		生活発達看護論Ⅳ（老年）	生活機能支援論Ⅳ－①（老年）	生活機能支援論実習Ⅳ－②（老年）						
		生活機能支援論実習Ⅳ－③（老年）								
DP4		CP5	メンタルヘルス・アセスメント		生活機能支援論Ⅴ－①（精神）	生活機能支援論実習Ⅴ（精神）			地域包括ケア論実習Ⅰ（老年）	
				地域包括ケア論Ⅰ（在宅）	生活機能支援論Ⅴ－②（精神）			地域包括ケア論実習Ⅱ（在宅）	地域包括ケア論Ⅳ（在宅）	
					地域包括ケア論Ⅱ（在宅・地域）			地域包括ケア論実習Ⅲ（在宅・学校）		
	メンタルヘルス・プロモーション			地域包括ケア論Ⅲ（地域・学校）	学校保健			地域包括ケア論実習Ⅳ－①（統合・精神）		
					チーム医療論			地域包括ケア論実習Ⅳ－②（統合・地域）		
			養護学概説							
DP5	CP6				国際看護Ⅰ			看護マネジメント論Ⅰ	看護マネジメント論Ⅱ	
					災害看護Ⅰ			国際看護Ⅱ		
									災害看護Ⅱ	
									看護教育学Ⅱ	
								専門職論		
					キャリアデザインⅡ		看護政策論			
					看護研究Ⅰ	看護研究Ⅱ	看護研究Ⅲ	看護研究Ⅳ		

13